

指定管理者制度導入施設の管理運営状況等に関する評価表
(評価対象年度: 令和2年度)

<施設概要>

施設	グリーンホール
施設の設置目的	市民の自主的な文化活動の場を提供するとともに、芸術文化活動の振興を図る
指定期間	平成31年(2019年)4月1日～令和11年(2029年)3月31日
指定管理者	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
所管部署	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課

<施設の過去3箇年の主な管理実績>

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度
利用者数	16万1297人	17万5112人	2万9977人
事業参加者数	3万9280人	2万5108人	4263人
貸出施設稼働率	86%	83%	63%
指定管理料(市決算額)	1億2567万4585円	1億3179万5177円	1億6378万9346円
利用料金収入	4129万4372円	4249万6076円	288万117円

<指定管理者における全体総括>

令和2年度は、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」を踏まえ、財団基本計画に基づき、市民や地域と連携・協働しながら事業に取り組みました。

事業運営では、東京2020大会の機運醸成とレガシー継承に向け、財団固有のテーマである「100年後の君へ」のもと、地域の文化資源の活用、幅広い関連分野との連携を強く意識しながら、各事業に取り組みました。また、共生社会の推進をテーマに、文化会館たづくりを中心に実施した「調布・巡る・アートプロジェクト」では、グリーンホールにおいては、窓面にチョークで描いた作品を展示するなど、文化施設を一体的に活用し、市民が身近に芸術文化に触れる機会の充実を図りました。

また、小ホールで行うジャズシリーズは、市内のライブハウスと連携した事業へリニューアルし、映像配信も含めて実施したほか、次世代の鑑賞者育成を見据え、音楽体験ワークショップと大ホールのバックステージツアーを併せた「はじめてのミュージックツアー」や「ミュージック・ワークショップ・フェスタ(東京文化会館との共催)」を実施し、市民が気軽に舞台芸術を体験する機会を提供しました。提携事業では、人気ユーチューバーであるピアニストを起用した公演を実施し、インターネット上のファン層にホールでの生演奏に触れる機会を提供し、鑑賞方法の幅を広げました。

施設の管理運営では、窓口での対応やアンケートなど多様な手段を通じて、利用者の声の反映に努めました。

組織運営では、人材育成に関して、共生社会の推進を目指して実施してきた「パラ劇場研修」の集大成として、障害のある方とない方が出演者となる公演を実施し、職員の意識向上につなげました。自主財源の拡充についても、寄附金、協賛金、外部助成金などの獲得に積極的に取り組みました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部事業の中止や規模縮小、施設の利用停止や貸出時間短縮などの対応を行ったことに伴い、施設利用者数、事業参加者数及び利用料金収入が減少しました。一方で、映像配信や感染防止対策を徹底したうえで様々な工夫を凝らしながら各事業を実施し、遠隔地の方など新たな参加者の獲得にもつながりました。

<施設の管理運営等に関する評価(各評価区分の考え方は下段の「評価の目安」を参照)>

業務の実施体制	確認項目	確認欄		
	業務マニュアルの整備(職員への周知含む)	(有(更新) 有 無)		
	緊急時におけるマニュアル・連絡体制の整備(職員への周知含む)	(有(更新) 有 無)		
	職員の育成(研修・緊急時対応等の訓練)の実施	(実施 ・未実施)		
	<評価におけるその他の視点> ・個人情報の保護及び情報漏洩防止のための措置 ・職員の勤務条件・待遇における関係法令の遵守 ・協定書等を遵守した業務の再委託 など		・適切な人員配置 ・適時適切な市との情報共有	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)			評価(b~d)
	継続的なアートマネジメント人材の育成に取り組み、芸術・文化分野の実務研修や職層に応じた研修をオンラインも取り入れながら実施した。共生社会の推進を目指して実施してきた「パラ劇場研修」の中では、障害のある方とない方が出演者となる公演の開催に向けて、出演者を講師に招いた財団職員向けの講演会等を開催し、出演者への支援の在り方や鑑賞サポート等について実践的に学ぶ機会とするとともに、共生社会の実現に向けた職員の意識向上を図った(新型コロナウイルスの影響により公演は中止とした)。			b
	また、財団職員を中心に、館内各課、事業者及び委託事業者スタッフを対象とした自衛消防訓練の実施及び自衛消防スキルアップ講習会の受講を行い、参加者の意識向上が図られた。その他、令和元年台風第19号への対応を踏まえ、風水害時のグリーンホールにおける避難所開設に関して、市と連携を図りながら、避難所開設訓練を実施し、避難所開設マニュアルの策定に向けた協議を行った。			
	新型コロナウイルス感染拡大防止対策においては、施設の利用停止及び利用キャンセルに伴う利用料金の還付のほか、一部事業の中止又は延期、オンライン配信を含む開催方法の変更など、市及び関係機関との情報共有や連携の下、迅速に対応した。			

評価の目安(b~d)

- b: マニュアル整備や研修等が適切に実施されており、その他、協定内容や関係法令等が遵守されている。
 c: マニュアル整備や研修等の実施、協定内容や関係法令等の遵守について一部改善を要する点がある。
 d: 業務の実施体制について、抜本的に改善が必要なものがある。

施設の維持・管理	確認項目	確認欄		
	施設・設備についての保守点検の実施	(実施 未実施)		
	施設・設備に不具合等があった場合の修繕等の実施	(不具合等 有 (69件) (うち対応69件)) ・ 無)		
	備品の適切な管理(台帳との照合)	(実施 未実施)		
	<評価におけるその他の視点> ・利用者の安全確保対策 ・適切な衛生管理(清掃対応, 感染症対策など) ・指定管理者として必要な保険への加入 など			
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)			評価(a~d)
設備不具合の早期発見・早期対応により、建物全体の長寿命化を図るため、日常・定期点検を積極的に実施し、69件の修繕を行った。			b	
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン」に基づき、施設の利用停止や収容率の制限等を行ったほか、市民利用も含め参加者の多い事業に活用できるよう、サーマルカメラを早期に導入し、より効果的・効率的な対策を行うとともに、市民の利便性の向上を図った。				

評価の目安(a~d)

- a: 施設・設備の点検や修繕等への適切な対応に加え、先進的な対策の導入など、優れた安全対策や維持保全などが行われている。
 b: 施設・設備の点検や修繕や備品管理、安全対策などをはじめ、施設の維持・管理が適切に実施されている。
 c: 施設・設備の点検や修繕等の施設の維持・管理について一部改善を要する点がある。
 d: 施設の維持・管理について、抜本的に改善が必要なものがある。

	確認項目	確認欄
サービスの提供	計画した事業(サービス)の実施	(計画どおり 一部未実施 ・ 多くが未実施)
	利用者数の状況(前年度比較)	(前年比5%超増 ・ 同水準(±5%) ・ 前年比5%超減)
	貸出施設稼働率の状況(前年度比較)	(前年比5%超増 ・ 同水準(±5%) ・ 前年比5%超減)
	新たなサービス(事業)の実施	(有) (3件) ・ 無) 主な実施内容: Chofu JAZZ Junction 及び同イベントのオンラインによる配信, ちょうふアートサポーターズ
	サービスの見直し(利用方法・事業回数・時間帯等)の実施	(有) (1件) ・ 無) 主な実施内容: 施設利用カードの3館共通化
	職員の接遇態度(言葉遣い, 態度, 服装, 問合せへの対応等)	(優れている ・ 普通 ・ 要改善)
	<評価におけるその他の視点> ・利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供 ・施設の設置目的に沿ったサービスの提供及び事業の実施 ・協定書等に基づく施設の開館日・開館時間の遵守 ・利用申請等に対する迅速な対応 ・利用者に対する附帯設備・備品等の適切な提供 ・利用者からの苦情や要望等に対する適切・迅速な対応及び市への報告 ・施設の利便性向上・利用促進に関する取組 ・利用者満足度アンケート調査等の結果 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(s~d)
	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の利用停止や収容率の制限等を行ったことに伴い、施設の利用率は63%となり、前年度比で大きく減少した。施設利用者アンケートによる満足度(「どちらかといえば満足」を含む。)は97.4%であり、前年度と同程度の高い水準を維持している。</p> <p>令和2年度から、これまで実施していたジャズコンサートを「Chofu JAZZ Junction」としてリニューアルし、新たに市内ライブハウスと連携を図るとともに、演奏内容を動画配信することで、音楽鑑賞へのアクセシビリティの向上やより効果的な事業展開につながった。</p> <p>また、新型コロナウイルスの影響により、計画事業の一部を中止・延期とした一方で、映像配信や感染対策を徹底したうえで事業を実施した。</p>	a

評価の目安(s~d)

- s: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)について, 特に優れた実績がある。
- a: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)が適切に実施され, かつ, 前年度実績を上回る実績が複数あるなど, 優れた実績がある。
- b: サービスの提供について協定書等の内容に基づき, 概ね適切に実施できている。
- c: サービスの提供について協定書等の内容に基づく対応が実施されていないものが散見され, 一部改善を要する点がある。
- d: サービスの提供について, 抜本的に改善が必要なものがある。

財務 の 状 況	確認項目		確認欄
	収支計画を踏まえた実績	利用料金収入	(計画比+5%超 ・ 同水準(±5%)) 計画比-5%超
		支出総額	(計画比+5%超 ・ 同水準(±5%)) 計画比-5%超
	収入(指定管理料を除く)の状況(前年度比較)		(前年比5%超増 ・ 同水準(±5%)) 前年比5%超減
	収入確保や経費縮減の取組		有 ・無)主な取組内容: 寄附金, 企業協賛金及び外部助成金の獲得
	<評価におけるその他の視点> ・指定管理料の適切な管理(帳簿等の整備) ・利用料金等に関する適切な収納及び還付事務の実施 など		
施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)	
東京都歴史文化財団からの補助金に加え, 文化庁から新たな補助金等を獲得したほか, 用途を限定しない寄附金については, 各事業において寄附の呼び掛けの場を設けるなどのPRを効果的に行った結果, 前年度を超える金額を確保した。 なお, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 施設の利用停止や利用キャンセルに伴う利用料金の全額還付を行ったことにより, 利用料金収入は令和2年4月, 5月, 及び令和3年2月分がマイナス値となり, 年間を通じて前年度と比べて大きく減少した。利用料金収入の実績及び減収影響の見込み分について市と協議を行い, 指定管理料の追加交付を行った。		a	

評価の目安(s~d)

- s: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え, 収入増加や経費縮減に関して, 特に優れた対応・実績が見られる。
- a: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え, 収入増加や経費縮減に関して, 優れた対応・実績が見られる。
- b: 収支計画等に基づく適切な運営が概ね実施できている。
- c: 収支計画等に基づく適切な運営や, その他財務に関連する取組に一部改善を要するものがある。
- d: 収支計画等に基づく適切な運営や, その他財務に関連する取組に関して抜本的に改善が必要なものがある。

そ の 他	確認項目		確認欄
	地域等との連携による取組の実施		実施 ・未実施)主な実施内容: バッハ・コレギウム・ジャパンによる公開リハーサル, Chofu JAZZ Junction
	地域貢献活動の実施		実施 ・未実施) 主な実施内容: 調布駅前クリーン作戦
	<その他評価の視点> ・省エネルギー, 省資源等の取組による環境への配慮 ・市民雇用の取組 ・地域経済の発展に資する取組 など		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		評価(s~d)
	施設のライフサイクルコスト縮減に向けた省エネルギー化を推進している中, 令和2年度の電力使用量については, 施設の利用停止等の影響を受けており, 数値的な評価は困難であるが, 空調・照明設備等の見直しに引き続き取り組むことで, 更なる省エネルギー化を期待する。 相互協力提携に関する協定を締結しているバッハ・コレギウム・ジャパンによる公開リハーサルなど, 地域の多様な人材・団体と連携した事業が展開されている。また, 令和2年度から事業をリニューアルして実施した「Chofu JAZZ Junction」では, 市内ライブハウスとの新たな連携を図り, より幅広い市民から事業に関心を持っていただく機会につながった。 併せて, 令和2年度の「調布国際音楽祭」は, 新型コロナウイルスの影響により, 全ての公演を中止しオンライン配信により開催した。例年開催している桐朋学園大学オーケストラの定期公演も中止となる中, 国際音楽祭において, 桐朋学園の学生を含めた一般市民から多くの演奏動画の提供を受け, 広く配信したことで, 地域との音楽を通じた交流の継続を図るとともに, 地域の多彩な人材を市内外へPRする機会にもつながった。		a

評価の目安(s~d)

- s: 4つの視点に関する取組以外に, 地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて, 特に優れた対応が見られる。
- a: 4つの視点に関する取組以外に, 地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて, 優れた対応が見られる。
- b: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組が行われている。
- c: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組に関して一部改善を要するものがある。
- d: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への取組について, 抜本的に改善が必要なものがある。

<施設所管部署における全体総括>

令和2年度は、財団基本計画を踏まえて、東京2020大会の機運醸成とレガシー継承に向け、相互友好協定を締結しているバツハ・コレギウム・ジャパン公開リハーサルや新たに市内ライブハウスと連携して実施した「Chofu JAZZ Junction」など、地域の文化資源の活用をはじめ、芸術・文化の振興及びコミュニティの活性化の推進につながる様々取組が展開されるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を含め、施設の適切な管理運営が行われた。事業運営においては、映像配信等の新たな取組や、「ちょうふアートサポーターズ」の活動開始などにより、市民の文化活動への参加機会を広げるとともに、より効果的な事業展開につながる取組が行われた。

これらを踏まえ総合的に判断すると、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、市民の文化活動の機会を絶やさぬよう、様々な工夫を凝らしながら事業を展開し、新たな事業参加者の獲得にもつなげるなど、期待通りの業務が行われたものと高く評価することができる。今後も、市民が芸術文化に触れる機会の充実に努めながら、市民の文化活動が促進されるとともに、利便性が高く、安全・安心な施設管理が継続されるよう指導していく。

総合評価

A

総合評価基準

以下、施設の管理運営等に関する各視点に基づく評価に対応した係数の合計で総合評価を決定する。

